

第12期 第2回 京田辺市ごみ減量化推進審議会議事録（要旨）	
日 時	令和4年11月16日（水）午前9時30分～午前11時30分
場 所	京田辺市役所5階 議会全員協議会室
案件名	<ul style="list-style-type: none"> ○報告事項 ○今後の取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> 1 京田辺市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進捗状況と今後について 2 市民アンケート調査について 3 その他 ○その他
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・報告及び審議事項について、事務局より説明を行い、ご了承いただいた。

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事

○京田辺市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進捗状況と今後について

会長：この参考資料で、現行計画の目標値などすべてを網羅していると考えていいのか。

事務局：現行計画と中身を確認している。当初の計画が出来た時期と、現在では10年以上経過している。次回の計画では、新しい数値の指標なども、ぜひ審議会で、現実に即して求められた数値目標の設定を行うべきと考えている。

会長：事前にモニタリングする必要もあると思うので、前回の計画の数値目標を網羅する形で作成願いたい。

委員：事業系の紙ごみの資源化率はこの中に含まれているのか。

事務局：事業系の数値は含まれていない。

委員：粗大ごみが有料化になって一旦、排出量が減ったのに、また増えている原因は。

事務局：令和2年、3年が伸びているのはコロナの影響も多少ある。

会長：粗大ごみが2020年に多かったのは、やはりコロナの影響で家の片付けやDIYが増えたということが全国共通していますので一因と言える。また、安価な家具が普及していることも影響しているかと思う。民間のリサイクル業者と行政の役割は、今後すごく変動していくと思われる。間違いなくこれからの自治体の財政状況を考えても、自治体頼み、税金頼みでは難しいと思うので、官民どうやって共存していくのか課題である。

○市民アンケート調査について。

会長：何名ぐらいが対象なのか。

事務局：市在住の18歳以上、1,500名が対象。調査方法は郵送で行い、出来れば、年内発送で、回答期間は2週間という計画である。

副会長：質問で、「知っていますか」という聞き方が5回も出てくる。「聞いたことがありますか」などの表現が良いのではないか。

委員：居住地域で再生資源集団回収を行っていない人を聞くだけでなく、利用している人、利用していない人、全員に聞いてはどうか。集団回収を利用していない人に、「なぜ利用していないのですか」と聞くのではなくて、市民が再生資源の集団回収についてどう思っているかということが、より広い範囲で考えがわかるのではないかと思う

委員：「あなたがお住まいの地区を選んでください」という文言で、どこの地区を選んでよいのか迷うので、住所を記入するようにしてはどうか。

事務局：ごみを出されるのは世帯単位であると思われるので、1,500世帯と変更させていただく。再生資源集団回収については、各項目に答えていただけるように、例えば設問の順番を変えるなど、再生資源集団回収に参加している方でも、さらに申請を増やすためにはどうすればいいかなど、設問内容を変える方向で見直したい。ホームページ等で、アンケートについて周知するなども検討していきたいと思う。また、前回のアンケートと整合を図りたいと考えている。

会長：調査票については、たくさんのご意見をいただいたので、事務局の方でどこを訂正したかわかるような形にして、出来れば皆さんに改めて見ていただける方がいいかと思う。どれくらい時間がかかるか、検討したいただき、場合によっては私が確認させていただく。ご理解願いたい。

事務局：アンケートについては、ご意見を踏まえて、修正したものを会長と相談して、完成したものを発送前に皆さんにご覧頂こうと思う。次回の審議会で、アンケートの集計結果を報告したい。

【閉会】